



愛鷹の大地が育てた恵み
あしたか牛

地元で生産された良質で安全な牛肉を、地元の人に安心して食べてもらいたいという地産地消への想いから、地元「あしたか」の名を冠して誕生した「あしたか牛」。精肉店や飲食店がその想いを汲み、信頼関係を築きながら生産者の顔が見える販売を行ってきたことで、消費者にも徐々にその名が定着し、沼津が誇るブランドへと成長しました。

愛鷹山麓の豊かな自然の中でのびのびとすくすく牛たちは、厳選された飼料や徹底した飼育環境のもと、健康状態に常に気を配られながら、一頭一頭丹精込めて大切に育てられています。生産者たちの努力により、ストレスを感じることなく成長することで、やわらかく、風味豊かでコクがある肉質と、良質な脂が特徴の「あしたか牛」を名乗ることができるのです。その肉質は、日本の名だたるブランド牛にも引けを取りません。

生産者の愛情とこだわりが生んだ、安全でおいしさあふれる沼津の恵みをぜひ味わってみてください。



鮎壺の滝

住宅街に忽然と現れる
自然の造形

沼津市と長泉町を隔て、住宅街からほどちかい黄瀬川の中流を勢よく流れ落ちる鮎壺の滝。高さ約8メートル、幅は約90メートルとワイドな滝で、富士山をバックに四条に分かれて流れ落ちる光景は周囲によく溶け込んでいます。

約1万年前に噴出した富士山の溶岩流と愛鷹ローム層の境にできたこの滝では、富士山からの豊かな湧水を強固な溶岩部分が受け止めている様子を見ることが出来ます。その姿や成り立ちから県の天然記念物や伊豆半島ジオパークの構成資産に選ばれるほどです。滝の正面ではこぼりな吊り橋が、兩岸にある鮎壺の滝緑地と鮎壺公園を結び、風景を楽しむ人や散歩を楽しむ人などに利用されています。

この場所で鮎が滝壺に群れていたことから鮎壺という説や滝壺が藍色のように青く見えることから藍壺と呼ばれるようになったという説があります。また、黒澤明監督の映画「七人の侍」のロケ地になったことは知る人ぞ知るエピソードです。

自然の壮大なスケールを感じることでできる住宅街からほどちかい滝。ちよつとそこまで、ロクク自然を楽しむに出かけてみませんか。



戸田の塩

まるで雪のよう。
でも、あったかい

美味しい塩を作ることに誇りを持ち、いきいきと働く戸田塩の会のおかあさんたちの手によって生まれる戸田の塩は、身近なものを使って戸田の魅力を伝えたいというプロジェクトから商品化されたものです。

戸田地域では古くから駿河湾の海水を利用し塩作りが行われ、皇室に献上されたという記録もあったことから、塩でまちおこしをしたいと戸田のおかあさんたちは、日本各地だけでなくフランスにまで塩づくりのノウハウを学びに行ったそうです。

試行錯誤を重ねた末にたどり着いたのが、駿河湾沖を流れる黒潮を汲み上げ、薪を使ってじっくりと13時間かけて煮つめるといって、ごくシンプルな製法でした。すくい上げたばかりの塩には、しょっぱさの中にほのかな苦味がおかあさんたちは「クラシックを聴かせて熟成させると苦味がまるやかな味に変わるのよ」と秘密を教えてくださいました。

1日でわずか15kgしか採れない希少な塩を「日本一の塩」とおかあさんたちは胸を張ります。無添加でミネラルたっぷり。おかあさんたちの愛情がつまった沼津ブランド認定の戸田の塩は、豊かな海を感じさせる沼津の誇りそのものではないでしょうか。

文学かおる、散歩みち

潮の音プロムナード

時代に名を残した若山牧水や井上靖、本居長世、勝田香月など数々の文人墨客に親しまれた松林と富士山、そして駿河湾の風景を取り込んだ約6キロの散策路。志下海岸と千本松原を結ぶこの小径は「潮の音プロムナード」と呼ばれ、道程に点在する歌碑や文学碑とともに、ぬまづの宝に認定されています。

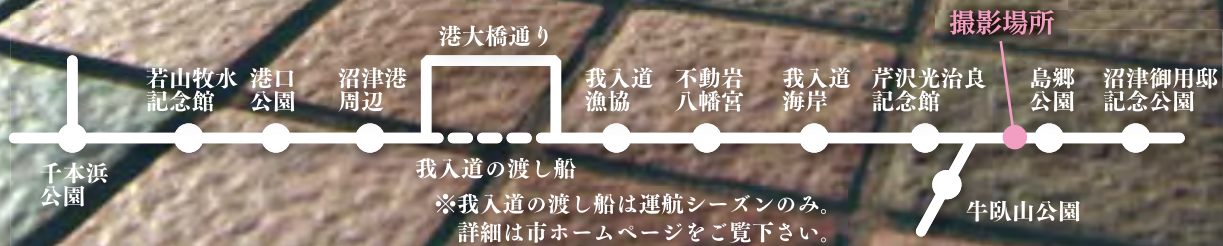
落ち着いた雰囲気に含まれるこのプロムナードでは、その名の通り潮騒が聞こえ、頬に海風を感じることができます。

春には叢生するハマヒルガオが牛臥や島郷の海岸を鮮やかに染め、冬には澄んだ空気の駿河湾の向こうに沈む夕陽が、雪をたたえた霊峰とあたり一面を茜色に照らします。初夏から秋にかけては、朝陽を浴びながら、松籟の中に培われた文学風土を感じてみると、とても心地よいウォーキングとなります。

運航シーズンには我入道の渡し船もプロムナードに組み込まれ、狩野川を渡る風が沼津の心地よさをそっと語りかけてくれます。

歩くことで感じるぬまづの宝。五感で味わってみてはいかがでしょうか。

◎観光戦略課 Tel 055-934-4747



「こないだは京都から一人旅で来たという女の子がいてな。そういう人たちに沼津のよさを伝えたり、その人の住む場所のよさを教えてもらうのがやりがいだな。だからもうすぐ80歳になろうってのに船を出せるんだよ」と豪快に笑うのは船頭歴20年の川口安次さん。

寒さが緩む3月下旬、「我入道の渡し船」は春期運航シーズンを迎えました。片道約20分の船旅は市民に愛されるばかりか、この日はおとなり三島市から沼津港へ向かうという家族連れや、台湾からやってきた青年も船に乗り、もうひとりの船頭で優しい笑顔が印象的な岩城地朗さんの案内に耳を傾けていました。

ちいさな木造船はたくさんさんの魅力に乗せて、街なかを流れる狩野川を渡ります。遠くから眺めるだけでなく、水の上でこそ楽しめる沼津の宝を、ぜひ体感して下さい。

問 観光戦略課 Tel 055・934・4746

笑顔に乗せて、水面を渡る

我入道の渡し船

※我入道の渡し船は3～5月末、7月中旬～同月末、9月中旬～11月末までの土日祝日等に運航します。5月1日(火)～6日(日)は毎日運航します。詳細は沼津観光ポータルをご覧ください。





大瀬崎のビャクシン樹林

駿河湾に突き出した約1キロ程の岬である大瀬崎は、海流によって運ばれた岩や土砂が堆積してできた半島で、大瀬崎を構成資産の一部とする伊豆半島ジオパークは、ユネスコ世界ジオパークに認められています。海越しの富士山を望む絶景ポイントとして有名な大瀬崎の先端に向かい、大瀬神社の鳥居をくぐると、神秘的で生命力溢れるビャクシンの巨木群が訪れた人を出迎えます。それぞれ違った表情を持つビャクシンは、幹や枝が荒々しくねじ曲がっており、その堂々たる佇まいに圧倒されます。国指定の天然記念物である大瀬崎のビャクシン樹林の一番奥には、推定樹齢1500年を超える夫婦ビャクシンが大瀬神社の分霊とともに鎮座し、大瀬崎一帯を見守っています。ビャクシン樹林の木漏れ日の中を歩く周遊道は大瀬神社の参拝を含め、1周およそ30分。この神秘的な樹林を何気なく散策できるのは、私たち沼津市民ならではの贅沢かもしれません。

青葉盛んなこの季節に、大瀬崎に足を運び、お気に入りのビャクシンとの出逢いを楽しんでみませんか。

◎観光戦略課

055-934-4747

三浦地区の リアス式海岸

静浦・内浦・西浦の三浦地区では、海岸線近くまで山地が迫り、山々の断崖や淡島などを始め、この地ならではの表情を見せてくれます。

発端丈山や達磨山の裾が沈下してできたこの海岸には山々から約40本の川が流れ込み、豊富な栄養が直接海に届けられることや波が穏やかであるリアス式海岸の特徴を活かし、古くから今日まで漁場として栄えてきました。美しい海と変化に富んだ海岸は沿岸に暮らす人々の毎日を豊かにしています。
 〓 観光戦略課 TEL 055・934・4747

沼津の海には、
 物語があります。



Boys Be ambitious.



青年たちが集い夢を馳せた 興農学園農場

西浦地区の海岸線を南下すると久連神社の脇に高さ2mほどの記念碑が現れます。全国から青年たちが集まり先進的な農業を学んだ「興農学園農場」がこの地にあったことを示しています。

昭和4年に創立者渡瀬寅次郎の遺志により、キリスト教主義に基づく農業教育の学校として設立された学園は、札幌農学校の二期生として学び、世界的にも著名な内村鑑三や新渡戸稲造らが深く関わったとされています。視察に訪れた内村鑑三は「江之浦湾を経て富士山を眺むる風景は世界一品であると思う」と日記に記したそうです。

学園運営は、地元久連の人たちに農業に関する講習会や農繁期の託児所の設置など地域の農業振興にも影響を与えています。中でも、この時端を発した託児制度は久連地区の保育所として戦後まで続けられていました。

西浦地区センター事務長の杉山さんは「子供の頃、裏山の農場跡地でよく遊びました。礼拝堂や農機具小屋など西洋風の建物が点在していたことを覚えています。この辺りの子どもはみんな学園が創設した久連保育所に通ってたんですよ」と話してくれました。

学園は戦争の影響により事実上の廃校となりましたが、先人たちの功績は今でもこの地に面影を残しています。

明治史料館

TEL 055・923・3335



めづり 百選 ぬまづの宝

第 69 回

清流と木漏れ日の散策路
せせらぎの径

愛鷹広域公園内、野球場のすぐ西側。泊まれる公園からちよつと下ったところを起点に、ちいさいながらも葛原沢川と名をもったせせらぎに沿って1キロにも満たない小道があります。「せせらぎの径」として親しまれるこの場所は、小川の涼しさとともに木漏れ日のなかを歩く散策路として、癒しのひとときを感じることができます。

このあたりの清流は、近くの湧水が源となっており、昭和の初め、このあたりでわさびの栽培が行われていたそうです。少年自然の家が賑わっていたころには、飯盒炊爨のかまどや採水設備などが設けられ、当時の小学生たちがこの清流と親しんでいました。市民の皆さんの中には、この風景を懐かしく思う人も少なくないでしょう。

初夏には蛍の観賞会が行われるほか、盛夏にはせせらぎの中に棲むサワガニを探したり、虫採り網をもって駆け回る子どもたちの姿をみることもできます。暑さがゆるむころには、ちょっとした自然観察やウォーキングの場所として、多くの人に愛されている様子が伺えます。

新たな魅力をもった愛鷹広域公園のなかでも、ノスタルジーすら覚えるような、いつまでも大切にしていきたい沼津の宝です。



大徳寺恩香殿と鐘楼門

※ 10月8日(祝)、10時～15時に国登録有形文化財の恩香殿・通玄橋の修理後の姿を公開し、解説します。

根方街道のすぐ北。愛鷹山南麓に開山七百年を数える古刹、澤田山大中寺があります。一步足を踏み入れると江戸末期に建立された山門が厳かに出迎えてくれます。市内唯一の釣り鐘つきの門「鐘楼門」であり、朝と夕に時を告げる鐘の音は地域でも親しまれています。

門をくぐると、そこには愛鷹山から連なる自然の起伏を活かした森の中に本堂が現れます。深い静寂の中に佇む伽藍が永い時の流れを感じさせてくれます。

御用邸を訪れた皇族が近隣に足を伸ばし、たびたび訪れたこのお寺には、皇族を迎えるために作られた明治時代の建物、恩香殿が現存しています。太鼓橋風の渡り廊下、通玄橋の先にある恩香殿は明治天皇の皇后である昭憲皇太后や大正天皇が休息するために建てられたもので、華やかな装飾を廃した上品な仕上げで和洋折衷の意匠が施されています。

麗らかに晴れ渡る秋の日には、皇族も愛した禅寺で、ありのままの自然に身を委ね、悠久のときを感じてみてはいかがでしょうか。

文化財センター

055・952・0844



ぬまづの宝
百選めぐり
第71回

沼津を華麗に舞う
よさこい東海道

商店街の人たちが集まり「自分たちの街に誇りを持てるような祭りを創ろう」という想いから始まったよさこい東海道も、今年で22回目を迎えます。

市内のチームをはじめ、よさこいの本場高知県のチームなど、全国から集まった踊り子、約2千6百人が、沼津のまちなかを舞台に、鮮やかな衣装をまとい、華麗な踊りを披露します。

立ち上げから祭りに深く携わっている実行委員の原田さんは「踊り子さんやスタッフ、地域の皆さんがよりいいものを創り上げようと自らが知恵を出し合い、年々進化してきたことが魅力の一つなんです。熱い想いが込められたこの祭り、みなさんと一緒に盛り上がるのができたら最高ですね」と意気込みを話します。

回を重ねるごとに成長し、今では晩秋の風物詩としてすっかり定着したよさこい東海道。全国的にも「よさこい踊り納め」の場となっているこの祭り、今年も沼津のまちなかを熱く揺らします。

よさこい
東海道



11.10 土



11.11 日

11:00～17:00 前夜祭 17:00～19:00 フォーク 17:00～19:00

狩野川演舞場、中央公園演舞場、市内中心商店街他

よさこい沼津まつり実行委員会(沼津商工会議所内) 055-921-1000 商工振興課 055-934-4748

地域に愛される果実
戸田たちばな



駿河湾越しに富士山を望む戸田地区の高台は、みかんの祖とも言われている日本固有の柑橘「橘」が自生する北限です。寒い冬に実をつけるこのちいさな果実は「戸田たちばな」と呼ばれ、地元の人たちに愛されています。

戸田たちばなは華やかな香りと爽やかな酸味が特徴で、すだちのように果汁や皮が料理のアクセントに使われています。また、実と皮を煮詰めて作るジャムは口に広がる香りと奥ゆかしい甘み、そしてほろ苦さのハーモニーがパンやクリームチーズと見事にマッチし、食卓をおいしく彩ってくれます。

戸田たちばなを使ってジャムやお茶などの加工品を作っている監物さんは「毎年、戸田の山の斜面を鮮やかな黄色に染めるたちばなは、冬の訪れを感じさせてくれる身近な存在なんです。昔からこの地域で親しまれているたちばなをもっとたくさんの人に知ってもらえたら嬉しいですね。これからも愛情込めて作るので、ぜひ味わってほしいです」と教えてくれました。

ちいさくて可愛らしい実のなかに地元の人たちの愛情がたっぷりつまっている戸田たちばな。戸田が誇る沼津の宝です。

◎農林農地課

TEL 055・934・4751



第73回

黄色く咲き誇る

井田の菜の花畑

沼津駅から南に向かって車を走らせること約1時間。100人ほどの人たちが暮らす井田地区は、季節により色とりどりの表情をみせてくれる魅力あふれる地域です。

夏には新緑と駿河湾の深い青、そして冬には休耕田を利用した菜の花畑が一面を鮮やかな黄色に染めます。開花に合わせて開催される菜の花まつりは多くの人に親しまれています。

井田地区に一足早い春の訪れを感じさせる菜の花畑ですが、昨年は担い手不足や高齢化により花が咲くことはありませんでした。しかし黄色に染まる井田の景色を楽しめないのは寂しいという多くの声が届くと、地元有志が集まり、今一度菜の花を咲かせようと秋に種をまいたそうです。

菜の花畑を管理する奥田さんは「一年空いてしまいました、綺麗に咲いたねと言われてとても嬉しかったです。菜の花はいろんなところで見られるけど、井田ならではのこの景色は私たちの自慢です。写真には収まりきらない魅力や雰囲気を感じ、この場所で味わってほしいですね」と微笑みます。

自らの住む場所に誇りを持ち、多くの人に魅力を伝えたい。その想いこそがぬまづの宝と言えるでしょう。

◎観光戦略課 TEL 055・934・4747



第七十四回

松蔭寺と白隠禅師

駿河には過ぎたるものがふたつあり、
富士のお山に原の白隠。



帯笑園や旧東海道の本陣跡の碑から
三町(約三百メートル)ほど東。白隠の里と
して整備された趣のある小径をそぞろ歩くと、風情あ
る石瓦葺きの山門が迎えしてくれます。

国の有形登録文化財である山門を構える白隠宗大本
山松蔭寺。弘安二年(一二七九年)に開創し、七百四十
年の歴史を持っています。

また、世界的にも著名な禅僧「白隠慧鶴」が住職を務
めたことでも有名で、地元では松蔭寺のことを、親し
みを込めて「白隠さん」と呼びます。

白隠禅師その人は、松蔭寺にほど近い場所に生まれ
幼名を岩次郎といいました。小さな頃からお経に親し
み、15歳の時に松蔭寺で出家。全国を修行してまわり
33歳で生まれ育った原に戻り松蔭寺の住職となります。
「大悟十八度、小悟その数を知らず(※)」と、全生命
をかけて禅の道を探究したばかりか、数々の画を用い
て広く民衆に教えを説いてまわり、臨済宗中興の祖と
して後世に名を残し、五百年間出の偉人とまで仰がれ
ているそうです。

白隠禅師は原の地で、ひたすらに後継者や民衆の教
化につとめ「駿河には過ぎたるものがふたつあり、富
土のお山に原の白隠」と謳われるほどになりました。
そんな白隠禅師が過ごした松蔭寺は、本堂が威厳と
共に鎮座し、境内には市指定文化財「木造白隠禅師坐
像」や県指定史跡の「白隠禅師墓」など歴史的価値が高
い文化財が点在しています。

潮騒と松籟に囲まれた閑静なお寺に足を運ぶと、禅
の覚えがなくとも、原が生んだ傑僧白隠慧鶴禅師の教
えに触れ、心が洗われるような気がするでしょう。

◎観光戦略課 TEL 055・934・4747

(※)大悟十八度、小悟その数を知らず
一度悟りを開いただけにとどまらず、大きな悟りは十八度、そ
して数え切れないほどの小さな悟りを開いたと記しています。



奥駿河湾の水軍城

長浜城跡



駿河湾の最奥部、内浦長浜の海に面した小高い岬の頂上に「長浜城」の城跡があります。

北東の海には淡島が浮かび、西の海を長井崎に守られ、風が遮られることで穏やかさを保つことから、長浜城の周辺は戦国時代から船の停泊場所になっていたと考えられています。現在でも、頂上から見下ろす湾内には何艘ものヨットが係留されている様子が見て取れます。

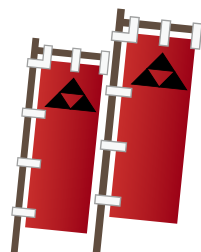
1579年、伊豆国を治めていた後北条氏は、北方から勢力を伸ばしていた武田氏に対抗するため、重要拠点である長浜城に北条水軍の主力を集めました。このなかには全長25m前後と推定される当時の最先端軍船である「安宅船」も含まれていたとされ、両軍はその翌年に千本浜沖で大規模な海戦を繰り広げました。

国指定史跡である長浜城跡は、平成27年に史跡として保存整備が完了し、建物跡や土塁(防御用の土壁)など当時の面影を垣間見ることができます。

やや急な階段を登りきった先にある見晴らしのよい頂上では「戦国時代にも富士山や愛鷹山、狩野川河口あたりがよく見えたはず」と案内されています。駿河湾越しに富士山を臨むという沼津ならではの風景は、歴史好きの人を楽しませるだけでなく、その美しさで訪れた人に感動を運んでくれることでしょう。

◎文化振興課(文化財センター)

TEL 055・9335・5010





第76回

地域の誇り「沼津方式」 ～ごみの分別収集～

住宅街を横切る蛇松緑道の通り沿いに、白銀町に住む皆さんが利用する資源ごみの集積所があります。そこでは、収集日の朝になると地域の皆さんが挨拶を交わし、分別されたごみを決められたところに置いていく自然な様子が伺えます。市内各地域で、当たり前のように見受けられるこの仕組みが、全国に広がったごみの分別収集「沼津方式」です。

市では、昭和50年に全国に先駆けてごみを「燃やすごみ」「資源ごみ」「埋め立てごみ」の3種類に分別する収集方法を開始しました。これは沼津方式と呼ばれ、ごみの減量や資源化に繋がったという利点だけではなく、市民や自治会がごみの分別に理解を示し、市民協働という形で実践することができたことから、多くの自治体が参考としています。

40年が経ち、分別品目が増えた今でも、市民の皆さんが家庭はもちろん、学校や職場でもごみを分別することが、生活の一部として根付いています。

全国に先駆けて始められたごみの分別収集「沼津方式」。分別することが当たり前という意識が皆さんの中に浸透していることが沼津の誇りと言えるのではないのでしょうか。

☎クリーンセンター管理課

055・933・0711

まちなかのD52
デゴニ

高沢公園のSL



沼津駅からほど近く、住宅街にある「高沢公園」は、面積約7千㎡、市内ではやや大きめの公園です。

公園の東側には複合遊具やブランコ、ジャングルジムなどバラエティ豊かな遊具が配置され、休日ともなると、子どもたちの楽しい歓声が聞かれます。西側には開放感のある土の広場があり、朝方にはグラウンド・ゴルフに興じる人たちが集まります。

そして、市内のどの公園にもない特別な個性が、公園の中央に静態保存されている蒸気機関車「D52 136号機」です。昭和19年生まれこの車体は、東海道線を舞台に旅客・貨物列車の牽引などの役割を務めた後、姫路機関区で活躍。

さらに、海を渡って北海道に移り、函館や室蘭など雪深い場所を走っていました。その面影は、車両の先端に取り付けられているスノープラウ（除雪板）から垣間見ることができます。

公園のそばにある文具店の店主は「春には公園の桜と蒸気機関車が共演します。この美しさはまさに地域の宝です。私たちがとっては見慣れた景色ですが、思わず写真を撮ってしまうほどきれいなんですよ」と教えてくれました。

地域で行われる桜祭りや清掃活動をはじめ、公園を利用する人たちを四季に渡って見守り続けている、地域の人たちが誇る公園のシンボルです。

◎緑地公園課

☎055・934・4795



今も昔も私たちの毎日を豊かにする

門池

門池地区のほぼ中心にあり、地域のシンボルになっている「門池」。一年を通して深緑の水を蓄えるこの池は、農業用水のため池として誕生しました。

江戸時代、日照りによる田んぼの干ばつ被害を防ぐため、黄瀬川を流れる水をせき止めた「牧堰」の補助をするために、この場所にあった小さな池が門池として整備されたと言われています。以来、愛鷹山の南東一帯の稲作に欠くことのできない灌漑用水を供給し、そこに住む農民たちの暮らしを支えてきました。

しかし、大正13年の大干ばつなどで黄瀬川の水量が激減したため、新たに牧堰と門池をつなぐ導水路が整備され、豊かな水量を蓄えることで、従来にも増して地域を潤す大きな役割を果たすこととなりました。

現在はその務めを終え、池をぐるっと囲むように遊歩道や芝生が整えられています。春に咲き誇る桜は市内でも有数の名所として知られ、空気の澄んだ冬には、水面に映る逆さ富士が私たちを楽しませてくれます。

池の周囲には、たくさんのお遊具やいくつかの四阿などもあり、小さな子どもから年輩の人まで、多くの人が楽しめる憩いの場となっています。また、ヘラブナ釣りのメッカとして市内外から釣り愛好家が訪れたり、池を眺めることのできるカフェもあるなど、訪れる皆さんが思いの時間を過ごすことができます。

時代によってその姿や役割は変わっていますが、その存在は今も昔も私たちの毎日を豊かにしてくれています。

農林農地課 TEL 055・934・4752

狩野川

暮らしの中を流れる



伊豆・天城を源流に駿河湾に注がれる狩野川。本州太平洋側で唯一北流する全長約46キロの大型河川です。市街地を悠々と流れる狩野川の姿は、千本松原や御用邸記念公園と並んで、沼津の代表的な風景といえるでしょう。黄瀬川と合流する辺りから活気あふれる沼津港まで、川岸には歩道や散策路が整備され、通勤・通学の時間帯には多くのビジネスマンや学生たちが行き交います。

あゆみ橋近くの右岸階段堤周辺には、水辺空間を活用したオープンカフェやクラフトビルを楽しめるお店があり、昼は雄大な狩野川の姿と行き交う人々の姿が見られ、夜には市街地のあかりが川面に映る都会的な雰囲気を楽しめます。所々に設置されているベンチに腰を掛け、ゆっくりと時間を過ごすのも良いですね。

夏の風物詩、狩野川花火大会や季節限定で運航される我入道の渡し船、こいのぼりフェスティバルなど、四季を通して様々なイベントが狩野川を彩ります。また、整備された歩道や橋を舞台に、かがわハーフマラソンやスイーツランなども開催されており、毎年市内外から多くの参加者が集います。全身心地よい川風を感じながら、日常的にも多くの人々がジョギングやサイクリング、散歩などを楽しんでいます。

市民に親しまれ、愛されている沼津の宝、狩野川。「狩野川があるライフスタイル」は、今日も私たちの暮らしに潤いと安らぎを与えてくれます。

ぬまづの宝
めぐり
百選

第30回

酒と自然と漂泊と。

歌人 若山牧水

第66回沼津牧水祭 碑前祭・芝酒盛
と き 10月20日(日) 11時から
ところ 千本浜公園牧水歌碑前
◎若山牧水記念館 ☎055-962-0424

酒を愛し、旅を愛し、自然を愛した歌人若山牧水。その生涯を文学に捧げ、実に9千首もの優れた短歌を世に残しています。

全国を旅し、その土地の風土を好んだ牧水の歌は、自然主義文学と呼ばれ、文芸に親しむ人だけでなく、広く庶民の心に浸透したそうです。牧水の歌碑は全国に約3百基が確認されており、その数は歌人の中では最も多く、旅を愛した牧水の足跡や人気がうかがえます。牧水が沼津に移ったのは大正9年のこと。

沼津の風土に魅せられ晩年を沼津で過ごした牧水は、精力的に執筆を進め、代表的な歌集「くろ土」「山桜の歌」を発刊しています。沼津で最も愛した千本松原で朝夕の散歩を楽しみ、沼津の風物を歌い続けた牧水は、昭和3年、満43歳という若さで生涯を閉じ、千本松原ゆかりの乗運寺に眠っています。

市内には、牧水の足跡や業績がわかる若山牧水記念館があり、牧水ゆかりの千本浜公園や香貫山には歌碑が建てられています。

牧水顕彰の活動を長年続けている沼津牧水会の林茂樹理事長は「全国から多くのファンが訪れるんです。市民の皆さんにこそ、もっと牧水を知って欲しい。毎年秋には、牧水の功績を顕彰する沼津牧水祭を開催しますので、ぜひ足を運んでいただきたい」と想いを話します。

沼津の宝である千本松原を守り、今もなお全国の皆さんに親しまれている若山牧水。沼津の誇りであり、後世に名を残す歌人です。

◎文化振興課 TEL 055・934・4812